

第七回

# 上手な医療の かかり方アワード



## 受賞プロジェクト 事例のご紹介

厚生労働大臣賞 最優秀賞

厚生労働省 医政局長賞

上手な医療のかかり方プロジェクトに関するお問い合わせ先  
info@mail.kakarikata.mhlw.go.jp

詳しくは上手な医療のかかり方公式サイトをご覧ください。  
<https://kakarikata.mhlw.go.jp/>

# 「上手な医療のかかり方プロジェクト」とは

昨今、医療の危機と現場の状況は深刻なものとなっており、  
 「いのちをまもること」と同時に「医療をまもること」は、  
 私たち一人ひとりがきちんと向き合い、考えていかなければならない喫緊の課題です。  
 「上手な医療のかかり方プロジェクト」は、そのような背景のもと、  
 すべての国民とその健康、また日夜力を尽くしている医師・医療従事者のために  
 始動したもので、国、自治体、医療機関、民間企業、市民社会など、医療に関わり、  
 恩恵を被る「すべての人」が考え、参加し、行動すべき国民的プロジェクトです。

## 診る人も、人。 その働き方にご協力ください。

将来にわたって適切な医療体制を維持していくために  
 上手な医療のかかり方を。



休日・夜間の  
子供の症状は  
**#8000**



病院へ行く？  
救急車を呼ぶ？  
迷ったら  
**#7119**



医療機関・薬局を  
カンタン検索！  
医療情報ネット  
(ナビイ)



気軽に相談できる  
かかりつけ医をもちましょう



夜間や休日診療、救急車は  
重篤な急患のためにあります

### “上手な医療のかかり方”大使のご紹介



俳優  
**川栄李奈**

1995年生まれ、神奈川出身。  
 2022年には、NHK連続テレビ小説『カムカムエヴリバディ』で主演を務めた。  
 2024年の今年、地上波GP帯初主演作となるドラマ「となりのナースエイド」  
 (NTV)、ヒロインとして出演し、興行収入50億円を突破し大ヒットとなった映画  
 『変な家』や、映画『ディア・ファミリー』、そして先日ロンドンで大千鶴楽を迎え  
 た「千と千尋の神隠し」に主人公千尋役として出演するなど、活動の幅を広げている。

公式ウェブサイト：<https://rina-kawaei.com/>

# 上手な医療のかかり方アワードについて

厚生労働省では平成30年度に「上手な医療のかかり方を広めるための懇談会」を開催し、  
 その懇談会において「いのちをまもり、医療をまもる」国民プロジェクト宣言！が為されました。  
 これを踏まえ、保険者・医療機関・企業・各種団体・自治体等において、  
 上手な医療のかかり方の啓発などの優れた取組や、医師などの医療従事者の負担軽減に向けた優れた取組、  
 並びに若年層に対する医療受診の教育に関して優れた取組を行っている企業や団体を厚生労働省が表彰し、  
 その理念や取組内容などを広く発信することで、  
 国民の医療のかかり方に関する理解を深め、取組主体の意識を高めることを目的としています。

## 取り組み募集アクション

- (1) 患者・家族の不安を解消する取組を最優先で実施している。 / (2) 医療の現場が危機である現状を国民に広く共有している。
- (3) 緊急時の相談電話やサイトを導入・周知・活用している。 / (4) 信頼できる医療情報を見やすくまとめて提供している。
- (5) チーム医療を徹底し、患者・家族の相談体制を確立している。 / (1)～(5)複数項目に関連する取組を実施している。

## 実施概要

主催	厚生労働省(上手な医療のかかり方プロジェクト)
実施期間	<応募受付>令和7年10月1日(水)～12月17日(水) <表彰発表>令和8年3月9日(月)
募集対象	(1)企業・保険者：一般企業、市町村国保、国保組合、協会けんぽ、組合健保、共済組合 (2)医療関係者：病院、診療所、医師会・病院団体等の関連団体 (3)民間団体：市民団体等 (4)自治体：都道府県、市町村 ※自社の事業・製品サービスの告知を中心とする応募は対象外。
表彰	●厚生労働大臣賞 最優秀賞 (1件) ●厚生労働省医政局長賞 (2件) ・1件：上手な医療のかかり方における総合的な制度設計が優秀な取組 ・1件：上手な医療のかかり方における優良なコンテンツの作成やナッジ等の取組 *ナッジとは行動科学の知見から、自発的に望ましい行動をとれるように人を後押しするアプローチの事

## 第七回「上手な医療のかかり方アワード」(令和7年度)審査委員

### 審査委員長

秋山 正子 認定NPO法人 マギーズ東京 共同代表理事 / マギーズ東京 センター長  
 株式会社 ケアーズ 代表取締役 / 白十字訪問看護ステーション 統括所長  
 NPO法人 白十字在宅ボランティアの会 理事長 / 暮らしの保健室 室長

### 審査委員

阿真 京子 子どもと医療 主宰  
 斐 英洙 慶應義塾大学 特任教授  
 西川 宜宏 厚生労働省医政局総務課医療政策企画官



上手な医療のかかり方アワード審査委員長

## 秋山 正子

コロナ旋風が終息したとはいえ、インフルエンザB型の流行も侮れない日々。医療現場の働き方改革は津々浦々まで浸透し始めている手ごたえを感じながら、ますます「上手な医療のかかり方」の普及・啓発が急がれるこの頃です。一時は下がった救急搬送数も、このところ増え続けていて、市民の皆様の上手な医療のかかり方への関心も、やや薄れてきているのではないかと危惧するところです。短い時間で、効果的な診察ができるかは、医療者と患者のコミュニケーションの取り方にも関連しますが、チーム医療が推進する中で、相談の窓口が各所に開いているのも安心材料の一つかと感じています。それには地域全体での情報共有も含めた連携が欠かせません。

今年の応募数は少ないまでも、その中から地域全体への働きかけを地道に行った自治体の努力が光りました。今回は、全体で14件の応募があり、その中から自治体部門への応募の広島市の取組を、厚生労働大臣賞最優秀賞として審査委員満場一致で選出しました。市民のどの年代にもわかりやすく手にとってみられるリーフレットを作成し、一般市民が集うショッピングモールなどのイベントなどでの啓発活動を、市長も巻き込んで実施。結果は救急出動件数の減少という実績を導き出されました。この手法は、他の自治体にも応用が利くモデルになっていくのではと期待しています。

厚生労働省医政局長賞の上手な医療のかかり方における総合的な制度設計が優秀な取組として選ばれた、東名富士クリニックの実践は、透析を専門とするクリニックの医療連携室を中心に140施設への310件の訪問を実施しながら医療・介護・福祉・行政を巻き込んでの具体的な多職種連携体制を実装し、転院率の減少などにもつなげています。慢性腎不全患者のことに限らず他疾患にも応用が可能ではないかと期待します。

もう1件、上手な医療のかかり方における優良なコンテンツの作成やナッジ等の取組に株式会社CMCエクスメディカが選ばれました。「はぐふる」WEBを運営し、なかなか相談しにくい妊活や子育て世代への不安軽減につながっている点、結果として不安解消率90~100%という高い成果を上げている点など、審査委員満場一致で選考されました。

応募数が少ないことが少し残念ではありましたが、日々の多忙な業務の中に、意欲ある取組の芽を育て、実践し、結果を応募して形にする行動をとれる職場は素晴らしいと称賛せざるを得ません。次年度も、ぜひ全国からの応募がありますようにと祈念いたします。

## 厚生労働大臣賞 最優秀賞

### p.05 つながる力で届ける”上手な医療のかかり方”

—リーフレットから広がる安心と笑顔—

広島市

## 厚生労働省 医政局長賞

### 上手な医療のかかり方における総合的な制度設計が優秀な取組

### p.07 多職種連携×地域連携による 透析患者の包括支援と相談体制の構築

東名富士クリニック

### 上手な医療のかかり方における優良なコンテンツの作成やナッジ等の取組

### p.09 妊活／産前産後／未就学児の疾患や治療法の 情報を提供する「はぐふる」WEBを運営

株式会社CMCエクスメディカ



厚生労働大臣賞  
最優秀賞

プロジェクト

# つながる力で届ける”上手な医療のかかり方” —リーフレットから広がる安心と笑顔—

受賞者  
広島市

所在地 広島県広島市中区国泰寺町一丁目6番34号 電話 082-504-2178  
メールアドレス healthed@city.hiroshima.lg.jp  
URL <https://www.city.hiroshima.lg.jp/living/medical/1021207/1022574.html>



取組風景写真

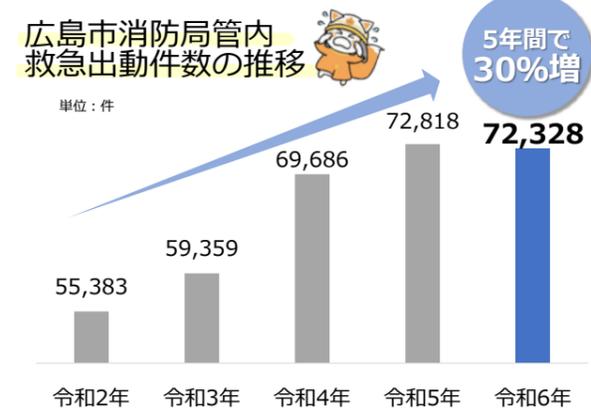
取組の経緯

## 「200万人の命を守る」

広島市は人口118万人の中国地方の最大の都市であり、広島市を中心とする、広島、山口、島根の33市町で構成する「広島広域都市圏」において、地域資源を圏域全体で活用する様々な施策を展開することで、圏域経済の活性化と圏域内人口200万人超の維持を目指しています。これが、「200万人広島都市圏構想」であり、広島市は都市圏の連携中枢都市の役割を担っています。

保健医療施策として、急増する救急搬送患者が喫緊の課題となっていることを踏まえ、24時間365日体制で医療相談等を行う救急相談センター#7119を運営していますが、広島広域都市圏内の各市町に参加を募り、近隣市町も含めた「200万人の命を守る」ことを目指して運営しています。

さらに、これまで以上に適正受診の普及啓発が不可欠と考え、2025年度は新たに医療のかかり方で迷ったときに活用できる情報や「かかりつけ医の大切さ」、「救急車の適正利用」といった市民に知っていただきたい情報を掲載したリーフレット「上手な医療のかかり方ガイド」を作成しました。



▲ #7119や夜間・休日に受診できる医療機関情報などを掲載！

事業の概要と特徴

## 「医療団体・保険者・行政」が協力して取り組む

このリーフレットをいかに多くの方に、効果的・効率的に、そして思いを込めて届けることができるか検討した結果、リーフレットの内容について理解している方から市民に手渡すことで、より効果的な普及啓発につながると考え、配布に当たっては、各区保健センターや消防局などの関係部署だけでなく、医師会、薬剤師会、民間企業、協会けんぽ、地域包括支援センターなど、本リーフレットの目指す方向に共感いただいた多くの関係団体の御協力を得て実施しました。各団体が医療に携わるものとして、協力して取り組むことで、よりリアリティのある形での普及啓発ができたと考えています。

それぞれの立場は異なりながらも、「将来にわたって適切な医療サービスを受けることができる体制を構築し、一人一人が人生の最期まで住み慣れた地域で安心して暮らすことのできるまちを目指す」という共通の目標のもと、一つの取組として結束して推進することができました。

医療のかかり方を変えていくポイント

## いざというときに役立つ情報を集約！

このリーフレットが市民にとって、体調が悪い時や医療のかかり方で迷った時に活用できる1冊になるよう、#7119や#8000といった相談ダイヤルについては、すぐに目に入る表面に配置しました。

中面には、「かかりつけ医と大病院の使い分け」と「救急車の適切な利用」を大きな柱とした内容を記載しており、医療の現場が危機である状況を広く周知できる構成にしました。

裏面の上部には、医療情報ネットや当番医、夜間急病センターなど、いざというときに役立つ情報をまとめて掲載しました。

裏面の下部には、日頃からかかりつけ医を意識できるよう、かかりつけ医・歯科医・薬局の記入欄を設けるとともに、医療機関受診時に準備した方がよい持ち物リストを記載しており、こちらは多くの医療機関等からも非常に好評でした。



リーフレット中面



リーフレット裏面



厚生労働省 医政局長賞

プロジェクト

## 多職種連携×地域連携による 透析患者の包括支援と相談体制の構築

受賞者

### 東名富士クリニック

所在地 静岡県富士市伝法177-1 電話 0545-22-6530  
 メールアドレス info@fujclinic.jp  
 URL https://fujclinic.jp/tomeifuji/



担当者会議



クリニックマルシェ

取組の経緯

### 透析患者の「生きる」と「生きる」を支える包括的支援体制の構築

日本の透析患者はピークを越えて減少傾向に転じていますが、平均年齢は2024年末の時点で70.27歳と年々高齢化が進み、透析患者の約73%が65歳以上となっています。

当院は透析治療や腎臓病外来、アクセス外来を扱う透析・腎臓病専門クリニックです。これまで透析施設・クリニックは、透析患者の生活において「透析のみを行う」機能を主に担ってきました。しかし、超高齢化やフレイルが日本全体として進行中、透析患者の日常生活動作の低下や認知症により在宅療養が困難となり、施設入所や療養型病院への転院を必要とするケースが増加してきました。

一方で、透析患者の受け入れに不慣れな施設も多く、透析療養、食事管理、内服管理、緊急時対応について不安を抱える施設職員や患者家族が少なくありませんでした。患者と家族が安心して生活できる支援体制を地域全体で整えるには、透析施設こそが透析医療における「ハブ」となる必要性が高まっていると考えました。

そこで2024年4月、地域連携室を設置し、透析患者の「生きる」と「生きるを支える」をモットーに、職種や施設間の垣根を超えて生活を支える取り組みを開始しました。医師・看護師・臨床工学技士・栄養士・理学療法士に加え、送迎担当者も含めた多職種チーム体制を構築し、施設訪問支援、在宅療養患者への訪問指導、多職種カンファレンスへの参加、ICTツールを活用した相談体制の整備、施設職員向けの教育・研修を一体的に展開することで、情報共有のハードルを下げ、透析患者が住み慣れた地域で安心して療養を継続できる包括的な支援体制づくりに本格的に取り組み始めました。



施設見学



勉強会

事業の概要と特徴

### 多職種・地域連携とICT活用により患者中心の生活支援体制を実現

本事業の最大の特徴は、医師・看護師などの資格者だけでなく、送迎担当者も含めた多職種が連携し、患者の生活を支えることを中心に考えている点です。医療機関はどうしても「医療の都合」を患者に押し付けがちになってしまっていますが、患者は透析を受けるために生きているのではなく、生きるために透析を受けています。当院は透析に関しては「ハブ」となりつつも、その価値の中心を患者に置き続けています。

2024年4月から2025年9月までに、医療機関・介護施設・包括支援センター等140施設へ延べ310件の訪問を実施し、退院カンファレンス、担当者会議、自宅訪問、新規透析導入オリエンテーションを行いました。「透析のプロ」だからこそできる知識やスキルを基盤に、施設職員や患者・家族との信頼関係を築き、安全性を確保しながら生活支援に取り組んできています。

LINE WORKSを活用した連絡体制により、写真・チャットによる情報共有を可能にしたことで、職種間や施設間のやり取りがスムーズになりました。その結果、施設職員や家族が困った時に相談を受けて、想いに寄り添った対応をする環境を整えました。また、勉強会・研修会や施設へのオリエンテーションを実施し、「透析患者受け入れの不安が軽くなった」との評価を得ています。さらに、地域交流の場としてクリニックマルシェを開催し150名が来院、透析という垣根を超えて「その人らしい」生活の場の構築を目指しています。

医療のかかり方を変えていくポイント

### 透析施設が「ハブ」となり、地域の「みんな」で考えていけるか

超高齢化が進む中、透析施設こそが透析における地域医療の「ハブ」となり、医療・介護・福祉をつなぐ役割を担うことが重要です。当院では、この転換を実現するため3つのポイントを重視しています。

第一に、多職種チームに加えて、地域連携による患者中心の支援体制です。一施設内の取り組みには限界があります。その枠組みを超えて関連する人たちが助け合いながら患者の「生活」を支えることを中心に考え、「医療の都合」ではなく、「患者の生きる」に価値を置いた支援を実践します。

第二に、情報共有のハードルを下げることです。LINE WORKSなどのICTツールも活用し、施設職員や家族が困った時に、施設間でできるだけスムーズに連携しながら協力できるように環境調整をしています。これにより、「透析のプロ」としての知識・スキルを地域全体で活用でき、施設側の不安解消と受け入れ力向上につながっています。

第三に、顔の見える関係づくりです。施設訪問、担当者会議参加、勉強会開催を通じて直接対話の機会を設け、信頼関係を構築しています。さらにクリニックマルシェなど地域交流イベントにより、透析医療への理解促進と社会的つながりの強化も図っています。

これらの取り組みにより、患者が住み慣れた地域で安心して透析を続けられる環境が実現しつつあります。透析施設が「ハブ」機能を発揮することで、地域全体で患者の生活を支える新しい医療のかかり方が広がっています。



厚生労働省 医政局長賞

プロジェクト

# 妊活／産前産後／未就学児の疾患や治療法の情報を提供する「はぐふる」WEBを運営

受賞者

## 株式会社CMCエクスメディカ

所在地 東京都港区新橋6丁目17番17号 電話 03-3434-0635

メールアドレス hug-full@cmc-xmedica.co.jp

URL https://www.hug-full.com/

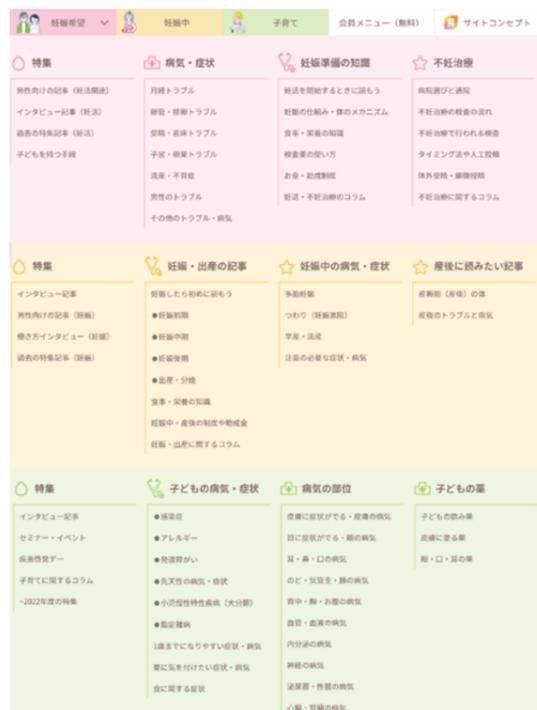
取組の経緯

### 伝わるメディカルの実践で社会に還元するためのプロジェクト

メディカル専門広告会社である当社は、「医療関係者・患者さん・社会にとって、より良い未来を創るために、伝わるメディカルを実践し続ける」というパーパスを掲げており、伝わることに重きを置いて、わかりやすく正確な情報提供を心掛け活動しています。

当社の活動の一環として、2019年7月より、医薬・製薬業界を中心に得た利益の一部を社会に還元するためのプロジェクト「はぐふる®-医療・ヘルスケアの情報発信サイト-」を公開し、収益性を求めない非営利活動を続けています。

はぐふる®は、妊活(不妊治療)/産前産後/未就学児を子育てしている保護者を対象としたWEBサイトで、「子どもの健やかな成育・安心安全な子育てへの実現のため、病気の早期発見・早期治療」をテーマに、疾患記事の公開・疾患啓発のセミナー運営・ユーザーの不安の声を拾い上げるお悩みQ&Aの掲載などを軸に活動を行っています。



## CMC GROUP



事業の概要と特徴

### 「病気の早期発見・早期治療」をテーマにした情報コンテンツを発信

妊活(不妊治療)/産前産後/未就学児を子育てしている保護者を対象に、25名以上の専門家・医師監修のもと、医学的な正しさにこだわった疾患記事(病気の原因や症状・治療法・予防方法など)を作成し公開しています。

2024年からは、病院や施設での取材や乳幼児の保護者向けに病気の啓発セミナーを開始し、実際の診察や治療の様子、受診方法等について情報の深掘りを行い、病気の早期発見・早期治療を目指した活動を行っています。会員サイトに掲載中の情報も含めすべて無料で公開しています。

- ◎300件以上の疾患記事、20件以上の取材記事を公開
- ◎乳幼児の健康オンラインセミナーを開催(5回開催済)
- ◎Instagramでの疾患啓発投稿(週2~3回)

- (会員サイト内)
- ◎40件以上のQ&Aを公開
  - ◎夫婦のコミュニケーションを解決する「夫婦のコミュニケーションシート」の配布
  - ◎セミナーアーカイブを公開

### 医療のかかり方を変えていくポイント

### 正確な知識の普及を行い気づきを提供。受診のタイミングやセルフケアを最適化。

〈疾患記事・取材記事を多数掲載〉

- ・ 広告非表示・不要情報の排除で、読みやすく誤解の少ない情報提供を行っています。
- ・ 医師・専門家監修で信頼度の高い記事の公開により、症状理解を深め、症状の見逃しや受診遅れの防止を目指しています。
- ・ 会員サイトを含め、すべて無料で利用しやすい環境を確保しています。

〈未就学児の保護者向け「乳幼児の健康オンラインセミナー(医師・専門家登壇)」の開催〉

- ・ 過去セミナーは無料会員サイトでアーカイブ視聴が可能です。オンライン形式・アーカイブ公開で学習しやすい環境を提供しています。

〈すべての子育て・病気関連記事に、夜間・休日に相談ができる子ども医療電話相談「#8000」を明記〉

- ・ 緊急時の適切な受診行動の促進として、#8000を明記し、救急・外来の適正利用につなげています。

